

平成29年第10回函館市教育委員会定例会 会議録

- 1 日 時 平成29年10月18日(水) 午後1時30分
- 2 場 所 教育委員室
- 3 出席者 辻教育長, 藤井委員, 小葉松委員, 須田委員, 青田委員
- 4 欠席者
- 5 事務局 小林生涯学習部長, 木村学校教育部長, 佐藤生涯学習部次長,
鶴喰生涯学習部次長, 阿部管理課長, 柴田学校再編・計画担当課長
- 6 傍聴者 なし
- 7 付議事項
- 日程第1 議案第1号 函館市立高盛小学校・函館市立千代ヶ岱小学校・函館市立金堀小学校統合校の校名に関し, 議決を求めることについて
- 日程第2 平成30年度予算についての意見交換

■辻教育長

- 開会宣言 午後1時30分
- 議事録署名人に, 藤井委員, 小葉松委員を選任。
- 本日の日程のうち, 日程第2, 「平成30年度予算についての意見交換」を「秘密会」としたいがいかがか。
- 異議がないので, 秘密会とさせていただきます。
- それでは, 日程第1, 議案第1号, 「函館市立高盛小学校・函館市立千代ヶ岱小学校・函館市立金堀小学校統合校の校名に関し, 議決を求めることについて」を諮る。

■学校教育部長

- 議案第1号, 「函館市立高盛小学校・函館市立千代ヶ岱小学校・函館市立金堀小学校統合校の校名に関し, 議決を求めることについて」説明する。
- 本議案については, 前回の定例会で報告したとおり, 統合準備委員会より, 校名決定について要望書の提出があったところであり, 統合校の校名を決定しようとするものである。
- 統合準備委員会は, 3校のPTA, 学校評議員, 学校職員の代表24名で組織されており, 統合校開校に向け様々な事項を協議している。
- 統合準備委員会では, 2「統合準備委員会での検討経過」にあるように, 統合校の校名候補の選考が行われたものである。
- 選考においては, 平成28年2月4日の教育委員会で決定した3の(2)「選考における考え方」にあるように, 地域性や歴史性を重視する教育委員会の校名選定方針に沿って進められ, 資料に記載の選定理由により「大森浜」「高堀岱」「はまなす」「日の出」の4つの校名候補が選定された。
- なお, 統合準備委員会で選定された4候補については, 「子どもたちが愛着のもてるも

の、読みやすい、使いやすいもの」そして「市民に親しまれやすいもの」などの視点にたち、校名候補として選定され、要望されている。

- 本日は、統合準備委員会からの要望も踏まえ、統合校の校名を決定していただきたいが、地域性や歴史性を重視する観点から、「統合校の所在地の町名」、「地域を象徴する名称（旧町名を含む）」、「既存校名または過去に地域に設置されていた学校の名称」という教育委員会の校名選定方針に沿って、決定していただきたい。

■辻教育長

- 議案第1号について何かあるか。

■小葉松委員

- 念のため確認です。統合校の所在地の町名は何ですか。

■学校教育部長

- 金堀です。

■小葉松委員

- 統合準備委員会からの要望の中身が、「選考における考え方」に必ずしも則っているとは思えない部分もあるが、その辺は統合準備委員会の議論の中で出ていないのか。

■学校教育部長

- 選定方針については、再三、統合準備委員会に伝え、各校長、委員長からも委員には説明をしている。なお、今回は、子どもはもとよりPTAにも関心を持っていただくということから、広くアイデアを募集している。募集用紙にも、こういう観点で選定しますということをつけ加えながら、アイデア募集をしたところです。統合準備委員会の議論の中では、「選考における考え方」は幾度となく出ている。ただ、実際出てきたものがどうなのかというご指摘だと思う。

■小葉松委員

- 色んなものが出てくるのはわかるが、そこから選ぶときの観点が、選定方針を読んでないのかなと思ひまして。

■学校教育部長

- 金堀というのは、町名でもあり皆さん想いはあるのですが、やはりその学校が残っているということで、どうしてもそこは敬遠された。金堀の保護者も、金堀というのは自分の学校が残るのであまりにもという遠慮があるらしく、そういう事情もあるように聞いている。

■教育長

- 正直、私も最初にこの名前を見せてもらったときは、あれっと思いました。

■管理課長

- 巴の時にこの議論があり、教育委員会の中でルールを決めないと駄目だよねという話しが出た。そして、この資料に記載の方針に基づいて、統合準備委員会に考えていただきましょうと、ルール設定を1回、教育委員会ですしています。

■青田委員

- 巴の時は、ここまでの考え方は出されてなかったですね。

■管理課長

- なかったです。ですので、当時は、函館中学校と巴中学校が候補にあがったかと。

■小葉松委員

- そのため、方向性を付けないととなりましたが、あまり変わってないですね、出てきたものを見ると。

■須田委員

- 私の統合校でのPTAの経験でいうと、やはり当事者は言いづらい。その時にも思ったが、教育委員会でこれがいいのではないかと決めてくれるのが1番いいかと、後々しこりが残らないと思いました。

■青田委員

- 公募するならいっそ市民に公募し、選考委員は有識者何人かで検討するのが本当はきれいな形だと思う。やはり想いが先行して、巴の時も難しかったです。

■藤井委員

- わかれれば教えて欲しいのですが、南茅部で木直小と磨光小が一緒になった時、同じくらいの時期だったと思うのですが、あの時は、磨光小という名前に、吸収合併のような形になっているのですが、その時は、木直側から何もなかったのですか。

■小葉松委員

- あの時は全く議論にもならなかったですね。木直の方が、親としては心配だから、磨光に入れて下さいという要望があったので。

■藤井委員

- 統合じゃなく吸収。

■小葉松委員

- 統合だったかもしれませんが、保護者の中には木直の名前をとる気持ちは全然なかったと思う。あの当時、移動教育委員会を確か木直でやってまして、その際、保護者も傍聴してましたけど、子ども達が大勢の中でもまれた方がいいという、PTAの想いがそっちだったと記憶している。今回は、対等合併みたいな感じですからね。

■藤井委員

- 私が、磨光小の教頭の時に、木直小の教頭と校名の議論をしたことを思い出しまして。校名は、この中から選ばないといけないのですよね。

■教育長

- そうですね。

■青田委員

- 町名が本当は一番わかりやすくいいと思うのですが、弥生は弥生町だから弥生にしたよと、金堀は金堀町だから金堀にするよと、小学校はそういったルールの方がわかりやすいと思う。中学校は決めてしまったのでしょうがないですけど。本当はそういう整理をした方がわかりやすいと思うのですが、差し戻しが難しいとなれば、この中から決めるしかないのかなと。

■小葉松委員

- 今回の話しではなくて、次また統合するときに、所在地の町名を教育委員会として候補に最初からインプットした方がいいかもしれない。先ほどの当事者同士だと言いたいことも言えないという状況を踏まえると、所在地が一番わかりやすいですから、それは無条件で一つ入り、それ以外の候補を出してくださいという、選ぶときにも困らないのかなと思いました。

■教育長

- 色々意見が出ましたが、この中から選ぶとするといかがでしょうか。

■藤井委員

- 大森浜小学校がいいと思います。

■教育長

- 他のご意見は。
- では「大森浜小学校」でいかせていただくということで。ただ、今出たご意見、決め方、提案の仕方については、もう1回考えてみる余地はあると思います。

■小葉松委員

- 「日の出」に関しては紛らわしいので、所在地ではない町名は、最初から却下にするなど、最低限のルールをこちらから出した方がいいのかもしれないですね。

■須田委員

- 名前を決めるときに、統合準備委員会からもらうのではなくて、こちらで有識者に考えてもらうなど、そういうやり方はどうですかね。

■教育長

- 名前の決め方に関して、何か教育委員会内でルールはあるのか。

■管理課長

- ない。

■小葉松委員

- むしろ作ればいいのかもしい。

■管理課長

- 統合準備委員会で、これまでそういう積み上げをしていますので、統合準備委員会の持ち方を変えるという話しにも、場合によってはなるのかなと。

■教育長

- あるいは、ある程度、常識的な線というか、そういうところを校長に改めて話していくなども考えられる。

■管理課長

- 今、統合準備委員会の校名選考のときには事務局職員も入っているので、事務局の方からの説明を徹底するなど、おそらくそういったことでも変わるかと。

■教育長

- 決め方に関わっては、もう一度事務局で議論をして、より良い方向に持って行きたいと思う。
- それでは議案第1号の校名は、「大森浜小学校」に決定する。
- 次に、日程第2、「平成30年度予算についての意見交換」を行う。
- 本件については、平成30年度の予算要求にあたり、委員のみなさまのご意見を伺う場とするものである。
- 来年度の予算編成状況について事務局から何かあるか。

(秘密会につき、会議録省略)

■教育長

- 以上で「平成30年度予算についての意見交換」を終了する。

■終了宣言

- 午後3時10分

議事録署名人 藤井 壽夫

〃 小葉松 洋子

調製者庶務係 奥ヶ谷 貴史